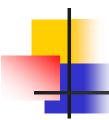


~ 平成18年度帰宅困難者避難訓練を踏まえて~

千代田区総合災害対策室防災課

「中央防災会議首都直下地震避難対策等専門調査会」発表資料



1. 千代田区の現況

夜間人口の約20倍もの昼間人口

夜間人口⁽¹⁾:約4.2万人、約2.1万世帯

昼間人口:約85万人

事業所数 :約3.4万

想定帰宅困難者数(2):約57万人

- 1 平成17年国勢調査
- 2 平成18年東京都被害想定



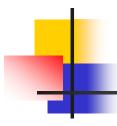
2. 千代田区の帰宅困難者対策

- 帰宅困難者避難訓練の実施
- ■「帰宅困難者対策地域協力会」 の設立 支援
- 区内大学との防災基本協定の締結
- 企業に対する備蓄物資購入費助成
- 区民(昼間区民を含む)への意識啓発など



3.帰宅困難者避難訓練の概要

- 区の総合防災訓練として、平成15年度から毎年1月17日に実施(今年で4回目)
- 対象者は、区民(昼間区民を含む)、事業者、その他帰宅困難者となる可能性のある人すべて
- 「帰宅困難者対策地域協力会」と共催
- 15・16年度は丸の内地区で、17・18年 度はメイン会場を富士見・飯田橋地区とし て複数会場で実施

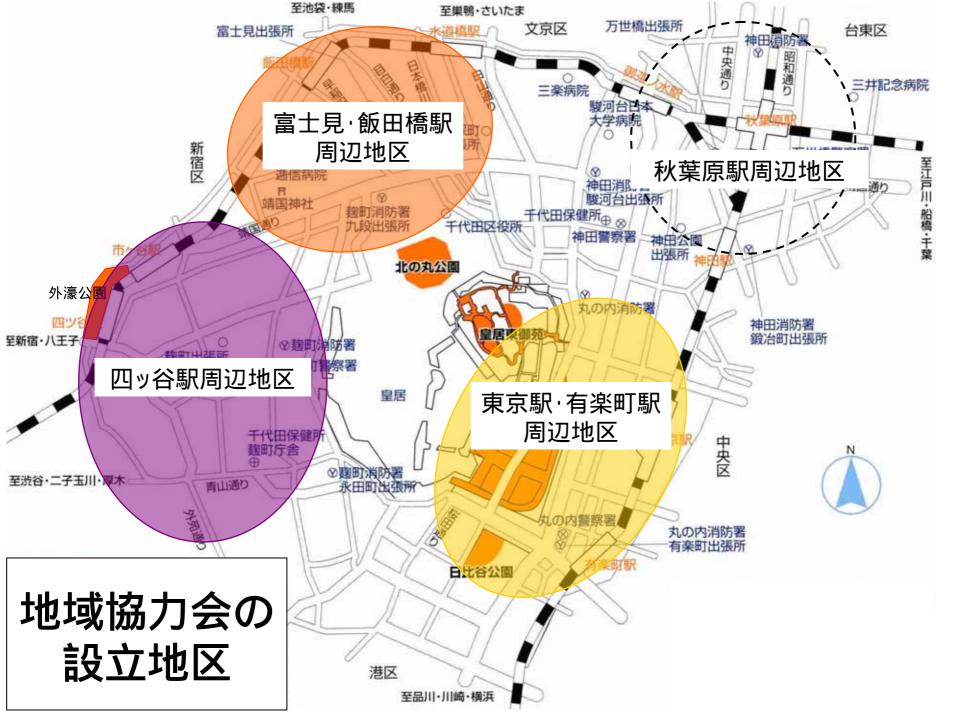


3.帰宅困難者避難訓練の概要

「帰宅困難者対策地域協力会」とは?

「協助」の理念に基づき、地域の事業所と町会が平常時から相互に連携し、災害時には協力して被害を軽減することを目的として設立された、自主防災組織。

千代田区内の交通の結節点周辺で設立されており、 平成15年度に東京駅·有楽町駅周辺地区で、平成17 年度には富士見·飯田橋駅周辺地区で、平成18年度 には四ツ谷駅周辺地区で設立された。



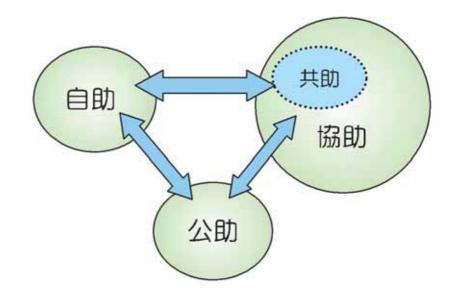


3. 帰宅困難者避難訓練の概要

■ 「協助」とは?

一般的な防災の基本理念である「共助」を基本としながら、より広〈事業者等を含めた 千代田区を構成するすべての人々が、相互に助け合い、 支え合って減災に取り組んでいくという考え方。

昼間人口が圧倒的に多い千代田区独自の理念。





3.帰宅困難者避難訓練の概要

◆今年度の訓練(H.19.1.17実施)の特徴

【想定】

<u>前日午後5時M6.9の東京直下地震が発生</u>、ライフラインは寸断、交通機関は運行停止中。

一夜明けて午前8時、徹夜の復旧作業にも拘らず、交通 機関の運行再開の目処は立っていない。

帰宅困難者が駅に集まり出す。帰宅困難者支援場所に 支援本部を開設。

地域協力会、区、防災関係機関、ボランティア等の連携による支援活動が開始された。

■帰宅困難者避難訓練 全体図



3.帰宅困難者避難訓練の概要

- ◆今年度の訓練(H.19.1.17実施)の特徴
- 第1部(体験型訓練:午前)、第2部(帰宅歩行訓練:午後)の2部構成
- > 一般参加者は、飯田橋、北の丸、丸の内の3コースから1 つを選択(事前申込み)
- ▶ 飯田橋、北の丸コースは、それぞれ」R飯田橋駅、地下鉄 九段下駅から出発し、メイン会場の北の丸公園で合流。 給食訓練を経て、第2部(帰宅歩行訓練)へ。
- 帰宅歩行訓練は、千葉、埼玉、多摩、神奈川の4方面に向けて歩行。
- > 丸の内コースは、丸の内MYPLAZAでレクチャー、非常 食試食会を実施後、皇居外苑、皇居東御苑へ。
- ▶ 45団体、約1,900人(延べ数)が参加。



(1) 安否確認の必要性の周知

地域協力会、ボランティア等が外出先で活動できるためには、家族の安否確認が重要。

(2) 情報通信手段の確保

情報不足が不安を煽る。混乱を防止するためには、正確な情報を速やかに提供する必要がある。

(3) 帰宅困難者の仮泊場所の確保

平日の夕方発災の場合、帰宅困難者が朝まで過ごす場所の確保が必要。地域協力会を軸とする施設開放を継続的に働きかける。



4. 今後の課題

(4) 住民(町会)と事業者の一層の連携

行き場を失った帰宅困難者が街に溢れることによる不安の増大、地区避難所の収容超過を招く。帰宅困難者問題を地域の課題として捉えると同時に、事業者にも地域の一員としての行動が求められる。

(5) リーダーの必要性

ボランティアは大きな力になる。効果的な活動を期待するには、受け入れ時の組織化がカギ。そのためには、 仕切る人(リーダー)が不可欠。



5.アンケートの回答から(抜粋)

行政に力を入れて取り組んで欲しい帰宅困 難者対策(自由回答)

- > 休憩所の確保
- ▶ 宿泊施設の提供、確保
- > 食料、水、トイレの確保
- 秩序の維持(パニックにならない情報の提供)
- 被災情報の収集と迅速で的確な情報提供



5.アンケートの回答から(抜粋)

その他感想、要望等(自由回答)

- 実際歩いてみることができ、色々参考になりました。(30代 女性)
- ▶ 訓練でも道路が一杯だった。あの数千倍の人が同時に帰宅 することを考慮してください。(50代男性)
- > 今回はじめての参加でしたが出来る限り多勢の人の参加を 希望(60代男性)
- コンビニエンスストアだけでなく、コーヒーショップなども支援 して下さると、都内は助かるのでは、と思いました。(30代)
- 現実の帰宅経路として、安全又は、通行可能性の高い道を 選択するべき。今回高速道路の下だった。(50代男性)

■ 第1部(JR飯田橋駅~北の丸公園)



JR飯田橋駅前の様子

東京区政会館会場 (応急救護訓練)



■ 第1部(JR飯田橋駅~北の丸公園)

アイガーデンエア会場



初動(救出)対応訓練

パネル展示、災害用伝言板 サービス体験

第1部(九段下駅~北の丸公園)

多数傷病者発生対応訓練(九段下駅前)



東京メトロ職員による担架搬送

ボランティア(セーフティーリーダー) による担架搬送



■ 第1部(九段下駅~北の丸公園)

多数傷病者発生対応訓練(九段下駅前)



医師によるトリアージ



■ 第1部(九段下駅~北の丸公園)

多数傷病者発生対応訓練(九段下駅前)



消防団、ボランティアが軽症者を 応急救護

救急隊、陸上自衛隊による重傷者の搬送



■ 第1部(北の丸公園)



帰宅困難者支援本部開設訓練

下水道管直結型トイレ組み立て訓練

■ 第1部(北の丸公園)



災害時の女性への配慮 (より多くの女性用トイレ、歩きやすい シューズの啓発)





■ 第1部(北の丸公園)

地域協力会(事業所)と住民の連携による倒壊家屋救出訓練



■ 第2部(帰宅歩行訓練)



新宿区界での 引継ぎ(左)

◆第2部(帰宅歩行訓練)



◆第2部(帰宅歩行訓練)



◆丸の内会場



外国人を対象とした応急救護訓練(左) おいしい非常食の試食会(下)



◆丸の内会場

帰宅困難者支援場所の皇居外苑へ(右) 下水道管直結型トイレの組み立て訓練(下)





おわり

~ ご清聴ありがとうございました~

